

ランボー・ファイア UNDER FIRE

◆ドキュメンタリーな
(衝撃)が走る、感動の力作!

●1979年、動乱のニカラグア。ソモサ大統領率いる政府軍とサンディニスタ民族解放戦線(FSLN)との激烈な戦いの渦中に、身を投じた3人のジャーナリストたちがいた――。

彼らは複雑な国際紛争のただ中で、勇敢に行動し、西陣営の間で苦悩し、しかも三人三様の愛と友情で結ばれる。周囲に渦巻く陰謀、飛び交う銃弾、そしてカメラのレンズを通して見えるのはニカラグア民衆の希望を託されたサンディニスタ・ゲリラの壮絶な戦いだ。

ニカラグアは、30年中期からアメリカの援助を得たソモサ家の独裁下にあった。やがて78年に至るや、独裁反対の国民感情が湧きあがり、これに呼応して反政府ゲリラのFSLNが闘争を展開して内戦となつた。

79年7月、ソモサ大統領が亡命し、FSLNは首都へ入城、新政府を樹立。しかし、その後アメリカによる経済封鎖のため、未だに内戦が続いている。

このような明日をも知れぬ状況の中で、映画の主人公たちは、真実の報道とは何か、ヒューマニズムとは何か、本ものの愛とは何かと、命がけで私たちに問いかけてくる。

●監督のスポット・ウッドは、サム・ペキンパーーやウォルター・ヒル作品の編集を手がけてきた注目の成長株。この作品は3年がかりの執念がみのった作品だ。

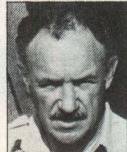
ドキュメンタリーな迫力ある映像を撮影したのは、「パリー・リンドン」でオスカーを受賞したジョン・オルコット。音楽は「ランボー／怒りの脱出」のベテラン、ジェリー・ゴールドスミスと名ギタリスト、バット・メセニーのリリカルなサウンドだ。(上映時間・2時間7分)



◆主な登場人物



●ラッセル(「48時間」のニック・ノルティ)
／知的で、ガツツイなアメリカのフォト・ジャーナリスト。激しい戦火の中で、思いもよらぬ決断を迫られる。



●アレックス(「地獄の7人」のジーン・ハックマン)／スクープに命を張る「タイム誌」のレポーター。ラッセルとの取材合戦の中で熱い友情が目芽えるが……



●クレア(「ブレードランナー」のジョアンナ・キャシディ)／人気ラジオ・キャスター。ラッセルとアレックスの〈愛〉のはざまで心は激しく揺れる……。



●ジャージー(「日曜日が待ち遠しい!」のジャン=ルイ・トランティニアン)／フランス出身、正体不明の武器商人。政府の黒幕として暗躍する。



●オーティス(「ライトスタッフ」のエド・ハ里斯)／ニカラグア政府軍の傭兵リーダー。ラッセルとはことごとく対立する世界を股にかけた「戦争の犬」。

＜ニカラグア全図＞



◆真実の報道とは何か

そして彼らは、そこで何を見たのか。

'79年、南米ニカラグアの首都マナグアで、ラッセル(ニック・ノルティ)、アレックス(ジーン・ハックマン)、クレア(ジョアンナ・キャシディ)―3人のジャーナリストたちは、再会した。

この国ではソモサ独裁に対し、反政府左翼ゲリラのFSLNが全面的武装闘争を展開していた。ラッセルの目的は、ゲリラのリーダーで民衆の英雄ラファエルをカメラに収めること。今までどんな記者もラファエルの取材に成功したことはないのだ。しかし、数日後、ラファエルが殺されたというニュースが入った……。

激しい銃火。命がけの取材。やがてラッセルのもとに、ラファエルに会わないかと、ゲリラ側から誘いがかかった。彼はまだ生きているのか?

やがて案内されたゲリラの本部で見たのはラファエルの死体だった。そして、依頼を受けた。「ラファエルが生きているようなニセの写真を撮ってくれ」と。

それはジャーナリストとして失格だ。だが民衆のためにゲリラを見捨てるともできない。彼は思いもよらぬ決断を迫られる――。

☆近日《衝撃》ロードショー!
特別鑑賞券発売中! 一般1200円・学生1100円

有楽町・東宝映画街

日比谷映画 (591) 5353